

令和6年度 生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援事業

滋賀県における
コロナ特例貸付利用者に対する福祉的支援に関する調査研究
暮らしに関するアンケート調査 報告書

令和7年8月

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

はじめに

滋賀の縁創造実践センター・滋賀県社会福祉協議会は、だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる人間的共感にねざした共生社会の実現のため「ひたすらなるつながり」の理念のもと、不断の地域福祉実践に取り組むことを法人の経営理念としています。

コロナ禍で経済的に困窮した人を対象として全国一斉に実施された「緊急小口資金等生活福祉資金特例貸付」（「コロナ特例貸付」）は、本県でも約2万世帯が利用され、貸付総額は約241億円でした。

本会では、令和5年度より、市町社協との連携により、借受人への全戸訪問によるフォローアップ支援（相談支援）を実施しています。本貸付制度の意義と課題を確認するとともに、生活福祉資金貸付事業とフォローアップ支援への取組みを検討するための資料を得ることを目的として、調査研究を3か年計画で進めており、令和5年度に第1期アンケート調査を実施しました。

第1期調査では、特例貸付を利用者は、いわゆる“溜め”がない人が多く、社会情勢や環境の変化によって、生活困窮に陥りやすいことが明らかになりました。昨今の物価高騰の影響等によって、生活状況はより厳しくなっていると推測されます。

そこで、第1期調査の追跡調査として、この物価高騰が進む現在、そういった人々は現在どのような生活実態にあるのか、また本県で実施している借受人への全戸訪問というフォローアップ支援がどのように機能したのか、を明らかにし、利用者のニーズに対応した生活再建の支援策を具体化することを目的に、第2期アンケート調査を実施しました。

今回の第2期調査により明らかになった利用者の生活実態とフォローアップ支援の効果検証、ならびに、各都道府県における様々な取り組みのエッセンスを交換、共有し、生活困窮者支援の充実を図っていく所存です。

最後になりましたが、この調査に対して助言からデータ分析まで幅広く関わってくださった日本福祉大学健康社会研究センターの斉藤雅茂教授、福定正城研究員の御尽力に対して御礼申し上げます。そして何より、この調査はアンケートにご回答いただきました世帯の皆様の御協力により成り立ったものであり、皆様に心より感謝申し上げます。

令和7年8月

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

目 次

I 調査研究事業の目的と概要 ……5

1. 事業の趣旨
2. 事業の内容
3. 実施体制

II コロナ特例貸付利用者へのくらしに関するアンケート調査 ……6

1. 調査概要 ……6
2. 調査結果の概要 ……8
3. 調査結果 ……11
4. 調査票 ……38

I 調査研究事業の目的と概要

1. 事業の趣旨

滋賀県では、約2万世帯が「生活福祉資金緊急小口資金等特例貸付(以下「特例貸付」)」を利用し、貸付総額は241億を超えた。生活福祉資金は相談支援付貸付であることから、本県では滋賀県社協と市町社協が連携し、特例貸付利用者のフォローアップ支援に取り組んでいる。

特例貸付の返済が令和5年1月から始まったが、その時点では、全利用世帯(約2万世帯)のうち、約3割が免除、約3割が返済中、そして約3割は連絡がとれずに状況不明となっていた。また、返済猶予の申請書類からは、失業後、再就職ができない人、就労先の業績悪化により収入が低迷している人、自身や家族の傷病などによりやコロナ禍以前から生活困窮が続いていると思われる人など、生活に困難を抱える人が依然として多いことがうかがえる。

今回の研究事業は、利用者調査及び追跡調査を実施することにより、特例貸付はどのような生活上の課題に対応できたのか、利用者は現在どのような生活をされているのか等について明らかにするとともに、生活福祉資金貸付制度のあり方、さらには生活困窮者支援の効果を高める支援方策等を検討する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 事業の内容

令和5年度～令和7年度にて、以下の内容を予定。2期目にあたる令和6年度については、令和5年度(1期目)に実施したアンケート調査の追跡調査として、「くらしに関するアンケート調査」を実施した。

(1)特例貸付に関する量的調査

- ・利用者を対象とした調査
- ・既存資料に基づく分析

(2)フォローアップ支援の効果に関する質的調査

(3)研究成果の発信

- ・(1)(2)の結果を踏まえて、生活困窮者支援に関わる機関、関係者に対し、研究から見出した方策等を発信
- ・課題解決に向けた行政への施策提案

3. 実施体制

- ・滋賀県社会福祉協議会役職員にてプロジェクトチームを編成し、企画及び調査にかかる業務を進める。
- ・調査の企画、実施にあたっては日本福祉大学健康社会研究センターに分析協力、助言を委託した。

Ⅱ コロナ特例貸付利用者世帯へのくらしに関するアンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査の目的

- 本会では、滋賀県独自の取り組みとして、返済が始まった令和5年度より、コロナ特例貸付利用者への全戸訪問を実施し、様々な困りごとに対する相談支援を行ってきた。
- コロナ禍を経て、貸付返済期間に入った中で、貸付利用者の生活状況は回復しているのか、困りごとは解決しているのか、また、本会が実施している個別訪問のフォローアップ支援は貸付利用者の生活を助けたのかを明らかにし、今後の支援策を見出すための参考資料とすることを目的とする。
- 本調査は、令和5年度に実施した「利用者のコロナ禍でのくらしに関する調査」の追跡調査として、現在のくらしの状況についてのアンケート調査を実施した。

(2) 調査の枠組み

- 調査対象 滋賀県の生活福祉資金・特例貸付支援の借受人 9,392 名
(2023 年調査時に転居等の方を除外)

<調査対象者数・抽出率>

		(母集団) 総合支援資金 初回件数	調査対象数 (県外等除外適用済を 除く)	抽出率	ひとり親 世帯 オーバーサン プル	2024 年 調査 送付数	2023 年 調査 送付数
1	大津市	4,030	1,430	2/5 抽出	137	1,467	1,567
2	彦根市	1,307	693	3/5 抽出	39	688	732
3	長浜市	2,410	1,073	1/2 抽出	60	1,028	1,133
4	近江八幡市	1,412	705	3/5 抽出	34	671	739
5	草津市	1,526	779	3/5 抽出	38	741	817
6	守山市	603	552	全 数	0	531	552
7	栗東市	761	532	4/5 抽出	7	503	539
8	甲賀市	1,069	631	7/10 抽出	6	586	637
9	野洲市	507	445	全 数	0	427	445
10	湖南市	1,481	772	3/5 抽出	36	704	808
11	高島市	291	261	全 数	0	248	261
12	東近江市	2,120	878	1/2 抽出	66	861	944
13	米原市	255	224	全 数	0	210	224
14	日野町	279	234	全 数	0	199	234
15	竜王町	65	55	全 数	0	45	55
16	愛荘町	370	331	全 数	0	306	331
17	豊郷町	123	117	全 数	0	108	117
18	甲良町	40	38	全 数	0	37	38
19	多賀町	57	54	全 数	0	52	54
		18,706	9,804		423	9,392	10,227

・市町村ごとの回答数を確保するために、各市町村で指定の抽出率に基づいて、系統抽出法にて対象者を抽出(県外等除外適用済を除く)

・ひとり親世帯の回答数を確保するため、一部市町村でオーバーサンプリングを実施

- 調査時期 2024 年 10 月 18 日～11 月 29 日
最終回収日)2024 年 11 月 22 日(web)／2024 年 11 月 29 日(郵送)
(参考) 2023 年調査 2023 年 10 月 20 日～11 月 30 日
最終回収日)2023 年 11 月 20 日(web)／2023 年 11 月 30 日(郵送)
- 調査方法 自記式調査
郵送法と Web 調査法(Google Form)の併用
Web 調査票は多言語(日本語・英語・ポルトガル語・ベトナム語・スペイン語)に対応
- 回収数 3,153 件(うち、質問紙回答=1,837 件、Web 回答=1,316 件)
(2023 年調査)3,384 件(うち、質問紙回答=2,003 件、Web 回答=1,381 件)
回収率 33.57%(3,153 / 9,392 件)
(2023 年調査)33.09%(3,384 / 10,227 件)
- 有効回収数:**3,083 件**(うち、質問紙回答=1,827 件、Web 回答=1,256 件)
(2023 年調査)3,299 件(うち、質問紙回答=1,992 件、Web 回答=1,307 件)
有効回収率:**32.83%**(3,083 / 9,392 件)
(2023 年調査)33.09%(3,384 / 10,227 件)

無効票 合計 118 件

①存在しない ID ケース(Web 調査のみ) ---> 16 件

②重複回答ケース ---> 102 件

<重複ケースの取り扱い>

①無回答(欠損)数が少ない回答分を採用する。

②(無回答数が同数の場合)質問紙調査への回答分を採用する。

③(無回答数が同数かつ質問紙調査への回答がない場合)回答日が古い方を採用する。

<2024 年調査>

		回答方法			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 質問紙回答	1827	59.3	59.3	59.3
	1 Web (日本語)	911	29.5	29.5	88.8
	2 Web (英語)	34	1.1	1.1	89.9
	3 Web (ポルトガル語)	206	6.7	6.7	96.6
	4 Web (ベトナム語)	55	1.8	1.8	98.4
	5 Web (スペイン語)	50	1.6	1.6	100.0
	合計	3083	100.0	100.0	

<2023 年調査>

		回答方法			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 質問紙回答	1992	60.4	60.4	60.4
	1 Web (日本語)	895	27.1	27.1	87.5
	2 Web (英語)	58	1.8	1.8	89.3
	3 Web (ポルトガル語)	227	6.9	6.9	96.2
	4 Web (ベトナム語)	79	2.4	2.4	98.5
	5 Web (スペイン語)	48	1.5	1.5	100.0
	合計	3299	100.0	100.0	

● 無回答・欠損の取り扱いについて

本分析では、無回答・欠損について、代入処理(Multiple Imputation など)は行なわず、集計から除外している(分母に含めていない)。このため、集計ごとに回答者の総数が異なる。

2. 調査結果の概要

(1) 総括

2024年10～11 月にかけて、滋賀県の生活福祉資金・特例貸付支援の借受人 9,392 名(ひとり親世帯を一部オーバーサンプリング)を対象にした質問紙調査(郵送法と Web 調査法の併用)を実施した。有効回収数は 3,083 名(有効回収率:32.83%)であった。回答者の性別は男性が6割弱、女性が4割強、平均年齢は 53.3(標準偏差=13.7)歳であった(同対象への追跡調査であり、2023年調査より平均年齢が+1歳となっている)。

1) 特例貸付に対する満足度と社協への信頼度

前回調査と比べて、コロナ特例貸付に対する満足度は減少している(時間経過に伴って満足度はやや低下している)が、80%以上がとても・やや満足と回答している。孤立しがちな人ほど、健康度が不良な人ほど特例貸付に対する満足度は低い傾向にある。

また、前回調査と比べると減少しているが、依然として回答者の8割弱が今後、困ったときに社会福祉協議会が頼れるところになると思うと回答している。上記の満足度同じく、孤立しがちな人ほど、社会福祉協議会が頼れるところになるとは回答していない。

2) 特例貸付利用者の今後の返済への不安

80%弱がコロナ特例貸付に関する今後の返済の見通しに関する不安を抱えている(前回調査と比べると微減)。「1)特例貸付に対する満足度」と同じく、孤立しがちな人ほど、健康度が不良な人ほど、今後の返済の見通しに不安を抱えがちな傾向にある。

3) 特例貸付利用者の現在の困りごとと家計状況

コロナ特例貸付の申し込み時/2023年調査時と比べて、2024年調査では全体的に困りごとは減少傾向にある。とくに「就職・仕事に関すること」や「住居・居住環境に関すること」は減少している。

ただし、「家計の状況」が「とても厳しい」は2023年調査よりも増加し、新規項目である「お金に関すること」は 76.9%が該当するなど、物価高騰の影響もあってか依然として経済的に困窮していることが伺える。

また、等価世帯月収※はコロナ禍以降、回復基調にあるが、コロナ前の収入には戻っていない。今回調査では、等価世帯月収 10 万円未満の人は 37.8%であった(2023年調査時は 42.9%)。

※ 等価所得とは、当該世帯の「生活水準」を表すように調整した所得を指す。同じ世帯所得であっても、世帯人員によって生活水準は大きく異なる。他方で、一人当たり所得という指標では生活水準を反映しにくいことが知られている(世帯人員が2倍になっても支出は2倍にはならないため)。ここでは、調査票で把握された月収について、世帯構成員の人数の「平方根」で除した値を用いている。たとえば、1人世帯で月収 30万円、2人世帯で月収30 万円、4人世帯で月収 30万円の場合、等価所得で表すと、それぞれ月収30 万円、21万円、15万円となる。

4) 特例貸付利用者の幸福度

2023年調査時と比べて幸福度は横ばい(微減)であり、内閣府等の全国調査との比較からも、依然として顕著に低幸福であり、2023年調査と同じく、健康度が不良な人、孤食傾向にある人が多い。

- 幸福度: 今回の平均 4.73<全国平均 5.89^{※1} 滋賀県の平均 6.71^{※2}

※1.内閣府(2024) 満足度・生活の質に関する調査報告書 2024;我が国の Well-being の動向

※2.滋賀県(2024) 第 57 回滋賀県政世論調査

- 一人で食事をする人が多い: 今回の調査 44.7%> 全国調査の割合 18.8%^{※3}

※3.農林水産省(2020) 食育に関する意識調査

5) 特例貸付利用者の相談できる人の有無

何か困ったときに相談できる人が「いない」と答えた人が 36.3%であり、「いる」と答えた人がコロナ特例貸付利用検討時(53.2%)と比べて 10.6 ポイント増加した。

相談できる相手では、親族・親戚、配偶者、同僚・友人などインフォーマルな関係が多い。行政や社会福祉協議会をあげる人は1割前後に留まっている。

6) フォローアップ支援の認識

2023年調査と比べて、社会福祉協議会からサポートや紹介を受けたという人は減少している(「とくに当てはまるものはなかった」が 40.1%から 68.8%と大きく増加)。また、直近1年程度で社会福祉協議会と貸付に関することや困りごとについて話をしたことがある、という回答は 25.9%に留まり、そのうち、「自宅に訪問があった」「電話がきた」のいずれも3割程度に留まっている。

7) フォローアップ支援の効果

社会福祉協議会の職員と話をしたと回答した人に限れば、「話をしてよかった」が 75.8%、「安心につながった」が 67.4%、「生活の困りごとの解決に役立った」が 59.7%と概ね肯定的な評価が得られている。

また、直近1年間での社協職員との関わりについて、「自宅訪問があった」と回答している人々では特例貸付に対する満足度が高く、返済に対する不安は少なく、かつ、今後社協は頼れるところだと思っている人が顕著に多い。電話や社協来訪ではなく、自宅訪問を増やすことの意義・可能性が示唆された。

また、2023年調査・2024年調査ともに回答をした人のうち、社協から紹介やサポートを受けた人ほど社協を信頼できると「思わない→思う」に移行した人が多く、社協職員と話をした人ほど幸福度が「低→高」に、自宅訪問を受けた人ほど返済の見通しに対する不安が「ある→なし」に移行した人が多い。社協によるフォローアップ支援が社協への信頼感向上、幸福度改善、不安軽減に寄与している可能性がある。

(2) 考察

1) 依然として経済的な困難を抱えている人は多く、根本的な生活再建には至っていない

特例貸付利用者の現在のくらしは、コロナ禍を経て2年を迎える現在もなお、生活再建に向かっているとはいいがたく、物価高騰等の社会的な情勢も相まって、経済的に困難な状態に陥っている人が多い。(家計の状況について、とても厳しいと答えた人が51.8%)

2023年調査時と比較して等価世帯月収は回復に向かっている一方で、「食料・日用品・家賃にかかる出費、ローン・借金の返済、税金・公共料金の支払」で困っている人が増えていることや、8割弱の人が返済の見通しに関する不安を抱えていることから、家計改善を中心とした支援の必要性が示唆されている。

償還状況についても、2023年調査時から現在まで大きな変化はなく、家計改善に向かっているとはいいがたい。償還猶予申請時に把握する生活状況においても、就労状態が安定し一定の就労収入があるものの、ローンや借金の支払いで収支バランスが崩れている人が多くみられる。

2) 調査結果から見てきたフォローアップ支援の意義

社協との関わりがあったと答えている人は、特例貸付への満足度が高く、返済に対する不安は減少し、社協は頼れるところだと思っている人が多いという結果であった。

電話や社協への来訪よりも、自宅への直接訪問の方が、利用者の安心や不安軽減に繋がっているという結果であったが、訪問調査の実績から世帯面談率は4割弱である。つまり6割は接点を持っていないことから、今後は、アウトリーチによる相談支援活動の方法をさらに工夫し、面談率をあげていく必要があると考える。

3) 生活再建支援の具体化

家計状況について、コロナ禍以降一時的に改善しつつも、再び困窮に向かいつつある。根本的な改善が出来ていない人たちに対して、どのように生活再建を支援していくのかの具体策が問われているといえる。

主に償還猶予中、返済への不安を抱えている人、多重債務等で苦しんでいる人に対して、家計改善支援を行っていく必要がある。また、家計改善だけでなく、相互に作用する複合的な課題を抱えている世帯に対し、課題解決に向けて多職種多機関が連携し、支援を実施していくことが求められている。

3. 調査結果

(1) 回答者の属性

- 性別は男性が 55.8%、女性が 44.2%とやや男性が多いが、2023年と比べて男女差が若干縮小(男性-3.5 ポイント、女性+3.5 ポイント)している。
- 平均年齢は 52.2(標準偏差=14.1)歳。2023年と比べ、34 歳以下が 3 ポイント減少し、65 歳以上が 1.7 ポイント増加し、35～64 歳の壮年層が 7 割弱を占める。
- 多くは介護・介助を必要としていない人であり、何らかの介護が必要な人は 1 割程度である。

性 別

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
男 性	1683	55.8	1916	59.3
女 性	1333	44.2	1316	40.7
合 計	3016	100.0	3232	100.0
答えたくない	34		24	
無回答	33		70	
合 計	3083		3326	

年 齢

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
34歳以下	258	9.1	375	12.1
35歳～49歳	897	31.7	962	31.0
50歳～64歳	1032	36.5	1120	36.0
65歳以上	640	22.6	651	20.9
合 計	2827	100.0	3107	100.0
無回答	256		219	
合 計	3083		3326	

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
介護・介助は必要ない	2671	89.8	2812	87.2
何らかの介護・介助が必要だが、 現在は受けていない	236	7.9	307	9.5
介護・介助が必要で、介護・介助 を受けている	66	2.2	104	3.2
合 計	2973	100.0	3224	100.0
無回答	110		102	
合 計	3083		3326	

- 一人暮らしの割合は、2023年から 2.8 ポイント減少している。
- 幸福度の平均は 4.73(標準偏差=2.58)と、2023年調査時と同様全国調査の結果と比べて低い。

ref. 内閣府による最近調査データ(2024 年 2 月実施)

全体の平均=5.89 (男性:5.81、女性:5.96)

内閣府(2024)満足度・生活の質に関する調査報告書 2024;我が国の Well-being の動向

現在、ご自身を含めて何人で暮らしていますか。

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
1 人	703	25.2	822	28.0
2 人	781	28.0	807	27.6
3 人	567	20.3	557	19.0
4 人	398	14.3	404	13.8
5 人	208	7.5	220	7.5
6 人	75	2.7	78	2.6
7 人	39	1.4	26	0.9
8 人以上	16	0.6	16	0.6
合 計	2787	100.0	2930	100.0
無回答	296		396	
合 計	3083		3326	

8人以上を一つにまとめている。対象者の回答に基づいたものであり、借受人名簿上の世帯構成の値とは一致しない。

あなたは、暮らしの中でどの程度幸せを感じますか

(「とても感じる」を 10 点、「まったく感じない」を 0 点としてご記入ください)

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
0点	208	6.9	203	6.3
1点	184	6.1	163	5.0
2点	222	7.3	271	8.4
3点	388	12.8	400	12.4
4点	255	8.4	267	8.3
5点	724	23.9	780	24.1
6点	270	8.9	329	10.2
7点	310	10.2	300	9.3
8点	265	8.7	283	8.8
9点	75	2.5	83	2.6
10点	133	4.4	152	4.7
無回答	3034	100.0	3231	100.0
合 計	49		95	
	3083		3326	

< 平均値 ± 標準偏差 >

2024 年 : 4.73 ± 2.58

2023 年 : 4.79 ± 2.55

- 就業状況は、2023年調査時と比較して大きな変化がなく、「仕事をしていない」人が17%、パート等の非正規での労働が3割強を占める。
- 「仕事をしていない」人のうち、仕事を探している人は57.3%である。

現在の就業状況についてあてはまるもの1つに○をつけてください。

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
勤め（常勤・正規職員）	824	27.5	926	28.7
勤め（パート・アルバイト・非正規職員）	995	33.2	1087	33.7
自営業・家業	556	18.6	613	19.0
内職	24	.8	17	.5
その他の就業形態	88	2.9	60	1.9
仕事をしていない	508	17.0	525	16.3
合 計	2995	100.0	3228	100.0
無回答	88		98	
合 計	3083		3326	

（仕事をしていない人について）現在、お仕事を探していますか。

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
仕事を探している	381	57.3	429	60.6
仕事を探していない	284	42.7	279	39.4
合 計	665	100.0	708	100.0
無回答	2418		2618	
合 計	3083		3326	

- 健康度が良好な人が約 6 割、不良な人が約 4 割であった。2023年調査時と比べて良好な人が 4.2 ポイント減少している。選択肢が異なるため単純な比較はできないが、国民生活基礎調査と比べると、健康度が不良な人がやや多い。

ref. 令和 4 年国民生活基礎調査

よい=22.3% まあよい=18.2% ふつう=46.7% あまりよくない=11.1% よくない=1.7%

- 食事はひとりですることが多いという人(=孤食)が 4 割強と、2 ポイント増加している。

ref. 農林水産省(2020)「食育に関する意識調査」

一日の全ての食事を一人で食べる頻度が週4～5日・ほとんど毎日=18.8%

現在のあなたの健康状態はいかがですか

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
とてもよい	276	9.1	367	11.2
まあよい	1551	51.0	1732	53.1
あまりよくない	1008	33.1	957	29.3
よくない	208	6.8	207	6.3
合 計	3043	100.0	3263	100.0
無回答	40		63	
合 計	3083		3326	

食事は誰とすることが多いですか【ひとり】

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
該当しない（一人で食事することは多くない）	1687	55.3	1872	57.3
該当する（一人で食事することが多い）	1364	44.7	1393	42.7
合 計	3051	100.0	3265	100.0
無回答	32		61	
合 計	3083		3326	

- 友人・知人と会う頻度が月1～3回以下の人がおよそ3／4を占め、孤立しがちな人が多い。
- 現在困ったときに相談できる人が「いる」と回答した人の割合は 63.8％であり、コロナ特例貸付利用検討時(53.2％)と比べて 10.6 ポイント増加している。
- 相談できる相手は、私的なネットワークへの依存度が高く、フォーマルな支援者への相談は限定的である。

友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

	2024年調査		2023年調査	
	n	%	n	%
週4回以上	184	6.0	186	5.7
週2～3日	256	8.4	281	8.6
週1回	356	11.7	405	12.5
月1～3回	725	23.8	808	24.9
年に数回	850	27.9	850	26.2
会っていない	673	22.1	715	22.0
合 計	3044	100.0	3245	100.0
無回答	39		81	
合 計	3083		3326	

今後何か困ったときに、相談できる人はいますか

2024 年

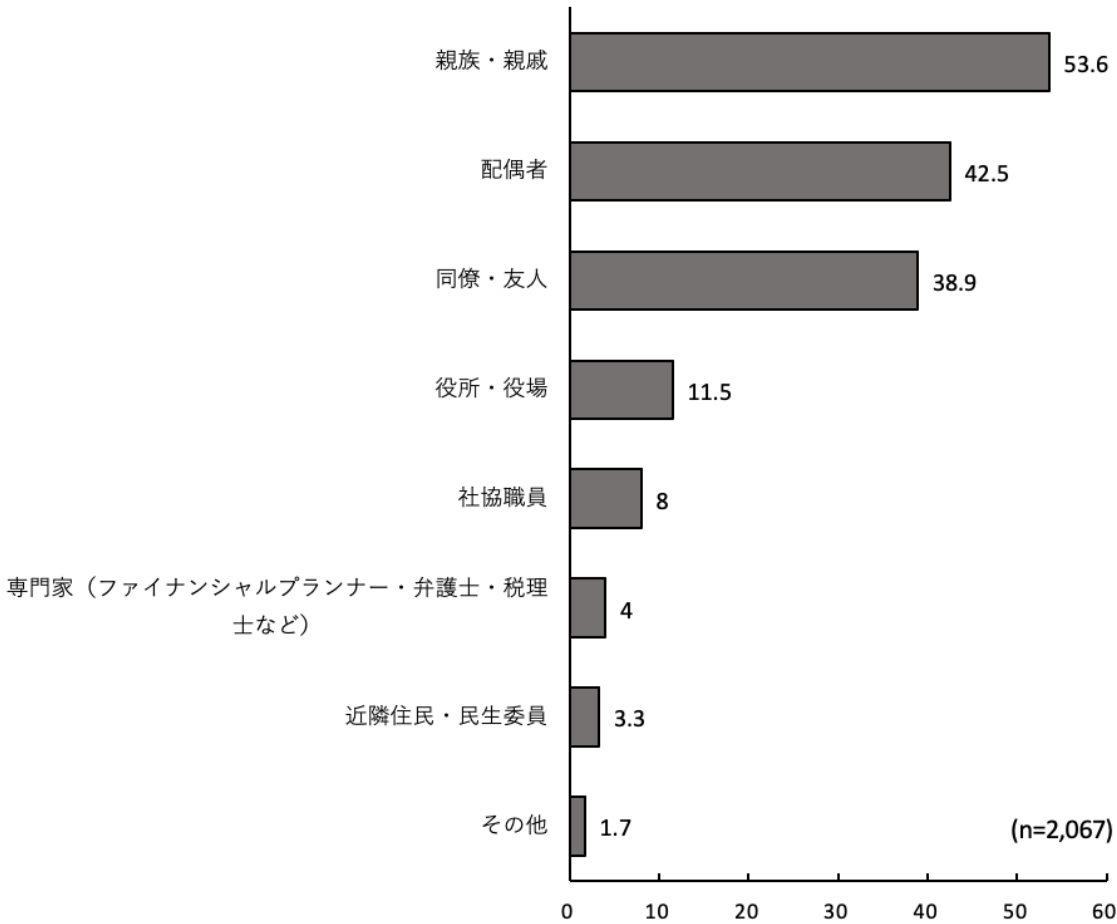
	n	%
い る	1646	63.8
いない	936	36.3
合 計	2582	100.0
無回答	501	
合 計	3083	

【参考：2023 年調査】（コロナ特例貸付の利用を考えている当時、困りごとを相談できる人はいましたか）

2023 年

	n	%
い た	1630	53.2
いなかった	1435	46.8
合 計	3065	100.0
無回答	261	
合 計	3326	

相談できる相手（複数回答）



- 等価世帯月収は、コロナ前と比べて、コロナ禍では極端に低くなっており、現在まで回復基調にある。ただし、コロナ前ほどの収入には戻っていない。

コロナ特例貸付前・所得減少時・現在の等価世帯月収の分布 ^{*1}

	2024 年調査		2023 年調査					
	現 在 (n=2,757)		現 在 (n=2,886)		コロナ禍 (n=2,886)		コロナ前 (n=2,886)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
低（10 万円未満）	1043	37.8	1,237	42.9	1,881	65.3	795	27.5
中低（10～15 万円未満）	691	25.1	657	22.8	523	18.1	644	22.3
中高（15～25 万円未満）	725	26.3	711	24.6	392	13.6	918	31.8
高（25 万円以上）	298	10.8	281	9.7	85	3.0	532	18.4
（平均値±SD） ^{*2}	2.10 ± 1.03		2.01 ± 1.03		1.54 ± 0.84		2.41 ± 1.08	

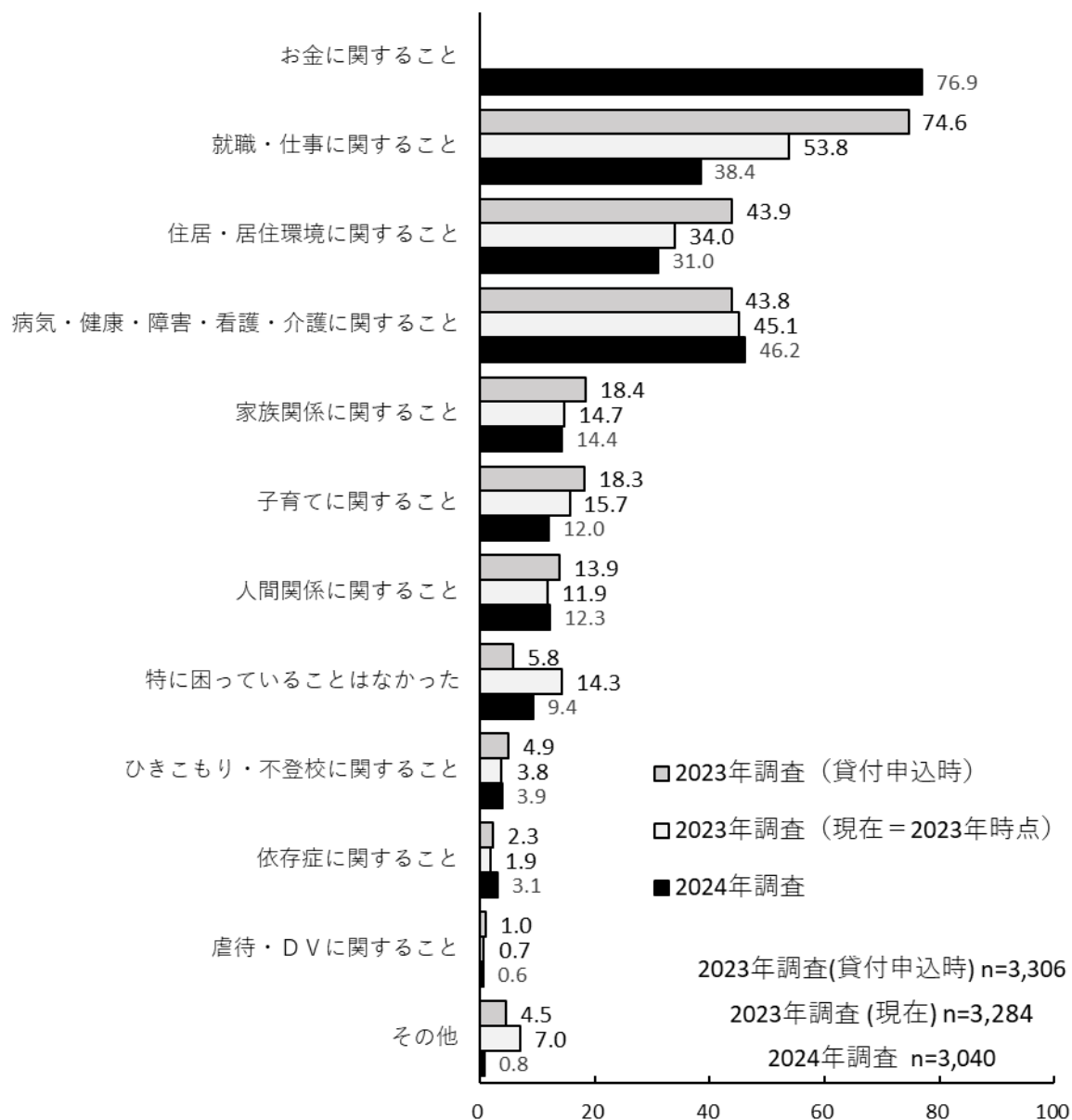
^{*1} 等価世帯所得として、世帯月収の各カテゴリーの中央値（0～5 万円未満＝2.5、5～10 万円未満＝7.5、10～20 万円未満＝15.0、20～30 万円未満＝25.0、30～50 万円未満＝40.0、50 万円以上＝55.0）について、世帯人員の平方根で除した値を使用した。算出された等価世帯所得を上記の 4 カテゴリーに集約した。無回答のケースは除外している。

^{*2} 平均値は、低（10 万円未満）＝1、中低（10～15 万円未満）＝2、中高（15～25 万円未満）＝3、高（25 万円以上）＝4、として算出した。値が大きいくほど月収が高いことを意味する。

(2) コロナ特例貸付はどのような困りごとの解消につながったのか

- 困りごとについては、コロナ特例貸付の申し込み時、1年前調査と比べて、2024年調査では全体的に減少傾向にある。とくに「就職・仕事に関すること」や「住居・居住環境に関すること」は減少している。コロナ禍を経て、状況が大きく変わっていることを示唆するものといえる。
- 他方で、新規項目である「お金に関すること」は 76.9%が該当しているほか、「特に困っていることはなかった」が減少しているなど、依然として経済的な困窮状況にあることが伺える。

コロナ特例貸付の貸付申込時および現在の困りごと（複数回答）



- 「食料・日用品・家賃にかかる出費」「ローン・借金の返済」「税金・公共料金の支払い」「家計の状況」をみると、貸付申込時から1年前調査時点で「とても困っている／とても厳しい」という人は大きく減少したが、2024年調査では再び増加している。一時的に改善しつつも、返済が開始し、再び困窮に向かいつつあることを示唆するものといえる。
- なお、「医療・介護にかかる出費」「教育・子育てにかかる出費」といった特定の事柄に関するもの、および、「娯楽・趣味・交際にかかる出費」という余暇の費用に関しては、貸付申込時以降「とても困っている」という人は減少を維持している。

コロナ特例貸付当時・現在の困窮度と家計状況

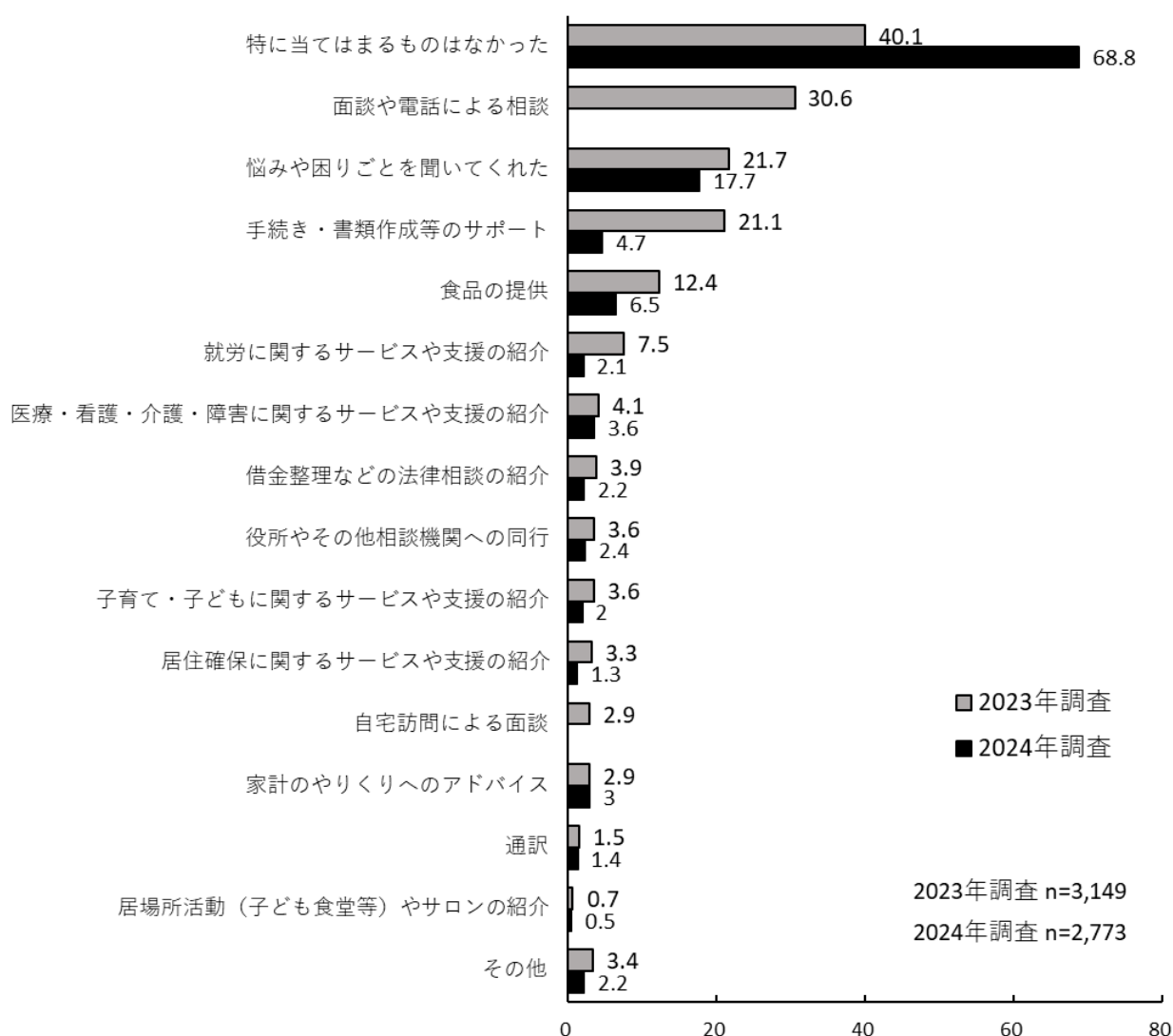
		2024 年調査		2023 年調査
		現 在 ^a	現 在 ^a	貸付申込時 ^a
食料・日用品・家賃にかかる出費	とても困っている	44.2%	37.5%	74.1%
	やや困っている	44.2%	49.7%	24.0%
	あまり困っていない	9.8%	10.9%	1.4%
	困っていない	1.9%	1.9%	0.4%
	(平均値±SD) *	1.69 ± 0.72	1.77 ± 0.71	1.28 ± 0.51
医療・介護にかかる出費	とても困っている	23.0%	22.3%	38.7%
	やや困っている	35.4%	36.4%	29.0%
	あまり困っていない	26.9%	26.9%	20.0%
	困っていない	14.7%	14.3%	12.3%
	(平均値±SD) *	2.33 ± 0.99	2.33 ± 0.98	2.06 ± 1.04
ローン・借金の返済	とても困っている	44.3%	38.8%	60.4%
	やや困っている	31.5%	38.9%	24.6%
	あまり困っていない	12.9%	13.8%	7.0%
	困っていない	11.3%	8.5%	8.0%
	(平均値±SD) *	1.91 ± 1.01	1.92 ± 0.93	1.62 ± 0.92
税金・公共料金の支払	とても困っている	41.2%	36.4%	59.5%
	やや困っている	41.1%	43.5%	30.8%
	あまり困っていない	13.1%	15.4%	6.3%
	困っていない	4.5%	4.6%	3.4%
	(平均値±SD) *	1.81 ± 0.83	1.88 ± 0.83	1.54 ± 0.76
教育・子育てにかかる出費	とても困っている	21.1%	22.3%	34.4%
	やや困っている	20.2%	23.4%	17.3%
	あまり困っていない	14.6%	17.6%	12.6%
	困っていない	44.1%	36.7%	35.6%
	(平均値±SD) *	2.82 ± 1.21	2.69 ± 1.18	2.49 ± 1.29
娯楽・趣味・交際にかかる出費	とても困っている	27.7%	31.7%	46.2%
	やや困っている	36.0%	37.2%	29.4%
	あまり困っていない	22.9%	20.6%	15.3%
	困っていない	13.3%	10.5%	9.0%
	(平均値±SD) *	2.22 ± 1.00	2.10 ± 0.97	1.87 ± 0.98
家計の状況	とても厳しい	51.8%	40.5%	75.3%
	やや厳しい	41.1%	45.1%	21.1%
	少しゆとりがある	6.2%	12.0%	2.8%
	ゆとりがある	0.9%	0.8%	0.3%
	(平均値±SD) *	1.56 ± 0.65	1.73 ± 0.70	1.28 ± 0.53

* とても困っていた／とても厳しい＝1、やや困っていた／やや厳しい＝2、あまり困っていなかった／少しゆとりがある＝3、困っていなかった／ゆとりがある＝4として算出したもの。値が大きいほどゆとりがあることを示す。

a 各変数に無回答のケースは分析から除外しているため、総数は変数ごとに異なる。

- 社会福祉協議会から受けたサポートや紹介については、全体的に1年前調査と比べて、2024年調査では減少している。各種の支援について「特に当てはまるものはなかった」が 40.1%から 68.8%と大きく増加している。特例貸付を受けた後1年を経て、回答者としては、社会福祉協議会から何らかの支援を受けているとはあまり認識されていないことが伺える。
- 直近1年程度で社会福祉協議会職員と貸付に関することや困りごとについて話をしたことがある人は 25.9%に留まる。それがあった人に限定しても、「自宅に訪問があった」「電話がきた」と回答した人はいずれも 3 割程度に留まり、社協職員によるフォローアップが必ずしも貸付や困りごとについて話をしたという認識にはつながっていない可能性がある。
- ただし、社協職員と話をしたと回答した人に限れば、「話をしてよかった」が 75.8%、「安心につながった」が 67.4%、「生活の困りごとの解決に役立った」が 59.7%と概ね肯定的な評価が得られている。他方で、約 1 割が「話してよかったとは思わない」、約 2 割が「安心につながったとは思わない」「役に立たなかった」とも回答している点も無視できない。

コロナ特例貸付の相談から今までの間に社会福祉協議会から受けたサポートや紹介（複数回答）



直近 1 年程度で社会福祉協議会職員と貸付に関することや困りごとについて話をしたことはありましたか

	n	%
あった	750	25.9
なかった	1,875	64.8
覚えていない	268	9.3
合 計	2,893	100.0
(あった人のみ)		
自宅に訪問があった	243	32.7
電話がきた	201	27.1
社会福祉協議会を訪ねた	366	49.3

話してよかったと思いますか／安心につながりましたか（直近 1 年間に社協職員と話をした人のみ）

	話をしてよかった		安心につながった	
	n	%	n	%
とてもそう思う	309	38.8	239	26.4
ややそう思う	294	36.9	281	33.3
あまりそう思わない	117	14.7	141	21.8
そう思わない	76	9.5	110	18.5
合 計(※)	796	100.0	771	100.0
(再掲)				
とても／ややそう思う	603	75.8	520	67.4

訪問や電話等は生活の困りごとの解決に役立ちましたか（直近 1 年間に社協職員と話をした人のみ）

	n	%
役に立った	207	26.4
少し役に立った	261	33.3
あまり役に立たなかった	171	21.8
役に立たなかった	145	18.5
合 計(※)	784	100.0
(再掲)		
役に立った／少し役に立った	467	59.7

(※) 一部、前問で「あった」と回答していない人が本設問にも回答しているため、前問の総数とは一致しない。

【参考：2023 年調査より】

コロナ特例貸付を通じた金銭面の援助や相談支援は、あなたの生活の困りごとの解決に役立ちましたか

	n	%
役に立った	2,249	68.9
少し役に立った	885	27.1
あまり役に立たなかった	88	2.7
役に立たなかった	40	1.2
合 計	3,262	100.0
(再掲)		
役に立った／少し役に立った	3,134	96.1

(3) どのような人がコロナ特例貸付に満足しているのか

- コロナ特例貸付に対する満足度については、前回調査と比べて減少しているが、80%以上がとて・やや満足と回答している(時間経過に伴って満足度はやや低下している可能性あり)。
- 基本属性による顕著な相違は認められないが、前回調査と同じく、男性よりも女性の方が「満足した」という回答がやや多い。2024年調査では「内職」の人の中で満足度が顕著に高い(その理由については別途検討が必要)。
- 訪問や電話等が困りごとの解決に役立ったかについては、基本属性による相違は認められなかった。

今回利用されたコロナ特例貸付に対する満足度はどの程度ですか

	2024 年調査		2023 年調査	
	n	%	n	%
とても満足	1,390	46.1	1,809	55.5
やや満足	1,162	38.5	1,165	35.8
やや不満	328	10.9	221	6.8
とても不満	136	4.5	63	1.9
合 計	3,016	100.0	3,258	100.0
(再掲)				
とても・やや満足	2,552	84.6	2,974	91.3

基本属性等による訪問等が困りごとの解決に役立ったか／コロナ特例貸付の満足度の相違

	2024 年調査				2023 年調査	
	役に立った% (やや含む)	p	満足% (やや満足含む)	p	満足% (やや満足含む)	p
性 別						
男 性	59.7		82.2		89.7	
女 性	60.7	.784	87.6	<.001	93.6	<.001
年 齢						
34 歳以下	63.0		87.5		92.2	
35 歳～49 歳	56.7		86.1		92.4	
50 歳～64 歳	57.2		83.3		90.2	
65 歳以上	67.2	.100	84.5	.205	92.6	.214
等価世帯所得(月収)・現在						
低(10万円未満)	58.0		85.5		90.7	
中低(10～15万円未満)	60.2		84.1		91.8	
中高(15～25万円未満)	62.1		84.2		91.1	
高(25万円以上)	61.7	.826	84.4	.835	92.9	.658
勤務状況						
勤め(常勤・正規職員)	57.1		84.8		91.3	
勤め(パート・非正規等)	58.8		83.3		91.0	
自営業・家業	56.9		87.8		91.5	
内職	66.7		100.0		87.5	
その他の就業形態	71.4		79.5		95.0	
仕事をしていない	63.1	.664	83.9	.037	91.4	.918

- 基本属性等による満足度や役立ち度の相違については、前回調査とほぼ同じトレンドにある。困りごとを相談できる人がいない人、友人・知人と会っていない人、食事を一人でしている人など、孤立しがちな人ほど特例貸付に対する満足度は低い傾向にある。
- 健康度自己評価でも顕著な違いがあり、健康度が良くない人と比べて、良好な人ではコロナ特例貸付が「役に立った」および「満足した」という回答が多い。逆に言えば、健康度が不良な人ほど特例貸付に対する満足度が低い。
- 一方で、社会福祉協議会から何らかの紹介やサポートがあった人の方が満足度はやや高く、訪問や電話等による困りごとへの解決が「役に立った」という回答が多い。
- 使用言語では、日本語や英語の人と比べて、その他の言語の人の方が「満足した」という回答が多い。

基本属性等による訪問等が困りごとの解決に役立ったか／コロナ特例貸付の満足度の相違（つづき）

	2024 年調査				2023 年調査	
	役に立った% (やや満足含む)	p	満足% (やや満足含む)	p	満足% (やや満足含む)	p
困りごとを相談できる人の有無						
い る	62.1		88.5		95.3	
いない	50.7	.005	79.2	<.001	86.6	<.001
友人・知人と会う頻度						
週4回以上	62.7		86.2		96.8	
週2～3日	57.3		85.4		94.3	
週1回	62.9		85.0		94.1	
月1～3回	62.7		88.8		90.7	
年に数回	58.3		86.0		91.9	
会っていない	56.7	.806	77.2	<.001	86.8	<.001
食事は誰とするか						
他者あり	58.8		86.6		92.7	
ひとり（孤食）	60.5	.637	82.3	.001	89.4	.001
健康度自己評価						
とてもよい	65.7		91.6		95.1	
まあよい	62.6		87.4		93.0	
あまりよくない	56.8		80.6		86.9	
よくない	50.0	.135	74.0	<.001	89.6	<.001
社協からの紹介・サポート						
な し	38.5		83.1		88.9	
あ り	73.4	<.001	88.0	.001	93.0	<.001
使用言語（調査票内）						
日本語	60.8		83.6		90.3	
英 語	50.0		84.8		98.1	
ポルトガル語	46.7		91.7		97.2	
ベトナム語	81.0		94.5		99.0	
スペイン語	43.8	.028	98.0	<.001	97.9	<.001

(4) どのような人がコロナ特例貸付に不安を抱えているのか

- とても不安・少し不安をあわせると、80%弱がコロナ特例貸付に関する今後の返済の見通しに関する不安を抱えている。前回調査と比べると、6ポイントほど減少している。
- 返済の見通しに関する不安には、顕著な男女差は認められず、年齢層では、50歳～64歳の間で「不安がある」という人が多い。また、高所得(等価所得 25万円以上/月)の人以外では「不安がある」人がやや多い。勤務状況では「内職」の人では「不安がある」という人が顕著に少ない(その理由は別途検討が必要)。

今後の返済の見通しに関する不安はありますか

	2024 年調査		2023 年調査	
	n	%	n	%
とても不安がある	1,401	47.3	1,585	49.3
少し不安がある	915	30.9	1,142	35.5
あまり不安はない	292	9.9	251	7.8
不安はない	355	12.0	235	7.3
合 計	2,963	100.0	3,214	100.0

(再掲)

とても/少し不安がある	2,316	78.2	2,728	84.9
-------------	-------	------	-------	------

基本属性等によるコロナ特例貸付返済の見通しに関する不安の相違

	2024 年調査		2023 年調査	
	(少しを含む) 不安がある %	p	(少しを含む) 不安がある %	p
性 別				
男 性	78.4		85.5	
女 性	77.9	.728	83.9	.210
年 齢				
34 歳以下	73.9		82.6	
35 歳～49 歳	76.7		81.4	
50 歳～64 歳	80.7		86.3	
65 歳以上	76.6	.041	88.9	<.001
等価世帯所得(月収)・現在				
低(10万円未満)	77.6		86.4	
中低(10～15万円未満)	81.2		86.3	
中高(15～25万円未満)	79.2		84.8	
高(25万円以上)	68.9	<.001	72.9	<.001
勤務状況				
勤め(常勤・正規職員)	78.9		84.3	
勤め(パート・非正規等)	82.5		85.0	
自営業・家業	75.5		86.8	
内職	54.5		100.0	
その他の就業形態	76.5		88.1	
仕事をしていない	73.4	<.001	82.3	.178

- コロナ特例貸付に対する満足度と同じく、返済の見通しに関する不安についても、困りごとを相談できる人がいない人、友人・知人と会っていない人、社会福祉協議会から受けた紹介やサポートが全くないと認識している人、健康度自己評価が良好でない人など、孤立しがちな人ほど不安があるという人が多い傾向にある。
- 使用言語とは統計学的に有意な関連は認められなかったが、英語とスペイン語使用者の間に不安があるという人がやや多い。

基本属性等によるコロナ特例貸付返済の見通しに関する不安の相違（つづき）

	2024 年調査		2023 年調査	
	(少しを含む) 不安がある%	p	(少しを含む) 不安がある%	p
困りごとを相談できる人の有無				
い る	73.9		82.9	
いない	85.0	<.001	87.3	<.001
友人・知人と会う頻度				
週4回以上	80.9		78.6	
週2～3日	73.2		82.7	
週1回	78.1		86.0	
月1～3回	76.1		83.6	
年に数回	77.0		84.8	
会っていない	83.3	.005	87.7	.030
食事は誰とするか				
他者あり	78.3		84.3	
ひとり（孤食）	78.1	.889	85.5	.378
健康度自己評価				
とてもよい	63.1		73.4	
まあよい	76.5		84.1	
あまりよくない	83.6		89.5	
よくない	83.2	<.001	91.1	<.001
社協からの紹介・サポート				
な し	77.0		83.0	
あ り	80.0	.082	85.9	.032
使用言語（調査票内）				
日本語	77.8		84.4	
英 語	82.4		92.6	
ポルトガル語	79.6		89.0	
ベトナム語	76.4		87.6	
スペイン語	90.0	.287	78.7	.080

- 貸付総額は、額が大きいほど返済不安の「ある」割合が高くなっている。貸付総額 45 万円以下では返済不安の「ある」割合が 6 割程度であり、156 万円以上で 8 割以上の人が不安を抱いている。
- 残債においても、同様の傾向にある。残債 45 万円以下の層では、返済不安の「ある」割合が 7 割弱であり、110～155 万円および 156 万円以上で 95%程度の人が不安を抱いている。
- 以上の結果から、返済に対する不安は貸付総額や残債によって明確に異なることが示され、特に残債額の大きさが返済不安に強く関連しているといえる。

貸付総額・残債による不安の相違

	n	(ややを含む) ある%	(ややを含む) ない%	p
貸付総額				
45 万円以下	67	59.7	40.3	<.001
46~109 万円	884	69.2	30.8	
110~155 万円	1238	81.3	18.7	
156 万円以上	765	85.0	15.0	
残債				
45 万円以下	1505	67.0	33.0	<.001
46~109 万円	845	86.4	13.6	
110~155 万円	343	94.5	5.5	
156 万円以上	261	94.3	5.8	

(5) どのような人が社会福祉協議会を頼りにしているのか

- 今後、困ったときに社会福祉協議会は頼れるところになると思うかについては、「とてもそう思う」が33.5%、「ややそう思う」が46.4%で、両者をあわせると8割弱が社会福祉協議会を頼りになると思うと回答している。前回調査と比べると、9.1ポイント減少している。
- 基本属性等との関連については、前回調査と同じく、65歳以上の人の間では「今後頼れる」という回答が顕著に多い。上記の結果と同様に、勤務状況では「内職」の人では「頼りになる」という人が顕著に多い(その理由は別途検討が必要)。

社会福祉協議会は、今後あなたが困ったときに頼れるところになると思いますか

	2024 年調査		2023 年調査	
	n	%	n	%
とてもそう思う	1,015	33.5	1,548	47.6
ややそう思う	1,405	46.4	1,345	41.4
あまりそう思わない	457	15.1	278	8.5
そう思わない	150	5.0	80	2.5
合 計	3,027	100.0	3,252	100.0
(再掲)				
とても・ややそう思う	2,420	79.9	2,894	89.0

基本属性等による「社会福祉協議会は今後困ったときに頼れるところになると思う」の相違

	2024 年調査		2023 年調査	
	(ややを含む) そう思う%	p	(ややを含む) そう思う%	p
性 別				
男 性	80.6		90.5	
女 性	79.6	.504	87.2	.003
年 齢				
34 歳以下	79.4		89.8	
35 歳～49 歳	77.4		88.3	
50 歳～64 歳	79.0		88.2	
65 歳以上	85.9	<.001	92.1	.049
等価世帯所得（月収）・現在				
低（10 万円未満）	80.5		87.9	
中低（10～15 万円未満）	77.7		89.8	
中高（15～25 万円未満）	80.9		91.1	
高（25 万円以上）	79.7	.439	88.6	.160
勤務状況				
勤め（常勤・正規職員）	80.5		90.7	
勤め（パート・非正規等）	77.8		87.0	
自営業・家業	84.6		92.1	
内職	91.7		76.5	
その他の就業形態	80.2		95.0	
仕事をしていない	77.4	.013	86.4	<.001

- これまでの結果と同じく、今後困ったときに社会福祉協議会は頼りになると思うのかについても、困りごとを相談できる人がいない人、友人・知人と会っていない人、社会福祉協議会から受けた紹介やサポートが全くないと認識している人、健康度自己評価が良好でない人など、孤立しがちな人ほど「そう思う(頼りになると思う)」という回答が少ない。孤立しがちな人ほど受援力も乏しい傾向にあることを示唆する結果といえる。
- 使用言語については、日本語とスペイン語使用者の間で、社協が頼りになると思うという回答が顕著に少ない。日本語使用者の間で社協への期待が低いのは前回調査と一貫している(その理由は別途検討が必要)。

基本属性等による「社会福祉協議会は今後困ったときに頼れるところになると思う」の相違（つづき）

	2024 年調査		2023 年調査	
	(ややを含む) そう思う%	p	(ややを含む) そう思う%	p
困りごとを相談できる人の有無				
い る	83.6		91.6	
いない	71.3	<.001	85.7	<.001
友人・知人と会う頻度				
週4回以上	82.5		89.8	
週2～3日	89.7		91.1	
週1回	82.8		92.5	
月1～3回	82.9		91.4	
年に数回	78.9		89.2	
会っていない	71.9	<.001	83.3	<.001
食事は誰とするか				
他者あり	80.6		89.8	
ひとり(孤食)	79.1	.307	88.0	.102
健康度自己評価				
とてもよい	85.9		92.9	
まあよい	83.2		91.2	
あまりよくない	76.1		85.6	
よくない	66.5	<.001	79.1	<.001
社協からの紹介・サポート				
な し	74.9		83.2	
あ り	90.3	<.001	93.0	<.001
使用言語(調査票内)				
日本語	78.7		88.4	
英 語	100.0		96.3	
ポルトガル語	88.3		91.1	
ベトナム語	100.0		93.8	
スペイン語	74.0	<.001	95.8	.046

(6) 直近 1 年間の社会福祉協議会職員との関わりによる満足度や不安等の相違
(フォローアップ支援の効果の可能性)

- 直近 1 年間で「社協職員と貸付や困りごとについて話をしたこと」の有無に関する認識によって、特例貸付に対する満足度の相違は認められなかった。しかし、「話をしたこと」が「あった」と認識している人たちでは、「返済に対する不安」がやや多く、一方で、今後困ったときに社協は頼れるところであると思っている人もやや多くなっていた。これらは社協職員による働きかけの影響の一端を表しているものと思われる。
- 関わり方別にみると、自宅訪問があったと回答している人々では特例貸付に対する満足度が高く、返済に対する不安は少なく、かつ、今後社協は頼れるところだと思っている人が顕著に多くなっていた。一方、電話があった／社協を訪ねたと回答している人々では、満足度に差はなく、返済に対する不安は高く、今後社協は頼れるところだと思っている人がやや多い程度であった。自宅訪問での関わりを増やすことが不安軽減にもつながり、今後の社協との関係維持にも貢献しうることを示唆する結果といえる。

	特例貸付に対する満足		返済に対する不安		今後困ったときに 社協は頼れるところ	
	満足 % (やや満足含む)	p	(少しを含む) 不安がある %	p	社協は頼れるところ そう思う % (ややを含む)	p
社協職員と貸付等について話をした						
あった	85.4		82.4		83.1	
なかった	85.0		75.5		78.5	
覚えていない	82.4	.480	83.2	<.001	78.0	.025
<社協職員の関わり>						
自宅に訪問があった						
あった	90.9		73.5		85.8	
訪問はなかった	82.7		87.3		81.7	
なかった／覚えていない	84.7	.013	76.5	<.001	78.4	.012
電話がきた						
あった	85.4		85.3		82.1	
電話はなかった	85.4		81.9		83.4	
なかった／覚えていない	84.7	.889	76.5	.001	78.4	.026
社会福祉協議会を訪ねた						
あった	83.5		86.9		83.6	
社協を訪ねていない	87.3		78.8		82.5	
なかった／覚えていない	84.7	.307	76.5	<.001	78.4	.026

(7) 返還免除に至っている人はどのような人なのか

- 調査対象者名簿上、返還免除なしが 23.7%、延滞が 31.5%、非課税・生活保護等免除が 42.1%、償還猶予が 2.0%、その他(障害者手帳・死亡等免除)が 0.7%であった。今回実施した質問紙調査への回答者と非回答者に顕著な差があり、調査回答者では「非課税・生活保護等免除」および「償還猶予」の人が多かった。
- 基本属性によって返還免除の状況は顕著に異なっていた。女性、高齢の人、等価世帯所得が低い人、自営業・内職・仕事をしていない人、独居世帯の方が非課税・生活保護等免除が多く、免除なしが少なかった。
- 同様に、孤食傾向にある人、健康度が不良である人、社協からの紹介・サポートを受けた人の方が非課税・生活保護等免除が多く、免除なしが少なかった。なお、困りごとを相談できる人の有無、友人・知人と会う頻度による相違は認められなかった。
- 回答言語別にみると、日本語・スペイン語の人では「非課税・生活保護等免除」が顕著に多く、英語・ポルトガル語・ベトナム語の人では「免除なし」が顕著に多かった。

調査回答と返還状態のクロス表

			返還状態					
			免除なし	延滞	非課税・生活 保護等免除	償還猶予	その他免除 (障害・死 亡等)	合計
調査回答	調査非回答	度数	1351	2461	2362	96	48	6318
		%	21.4	39.0	37.4	1.5	0.8	100.0
	調査回答	度数	871	502	1589	91	21	3074
		%	28.3	16.3	51.7	3.0	0.7	100.0
合計		度数	2222	2963	3951	187	69	9392
		%	23.7	31.5	42.1	2.0	0.7	100.0

注：各カテゴリーの定義は、以下の通りである。

免除なし：以下 4 カテゴリーに該当しないケース

延滞：「初回延滞回数」に延滞回数の記載のあるサンプル（「初回免除理由」に理由記載のあるケースは免除優先 n = 4）

非課税・生活保護等免除：「初回免除理由」に判定年度・生活保護・破産・収入減少・公共料金滞納・失業中または離職中・多重債務・複合的な事情と記載のあるケース

償還猶予：「初回残債」右列の「猶予期限日」に日付記載のあるケース

その他免除（障害・死亡等）：「初回免除理由」に障害者手帳・死亡・病気療養・病気療養中と記載のあるケース

基本属性等による返還免除状況の相違

	免除なし	延滞	非課税・生 活保護等免 除	償還猶予	p
性 別					
男 性	32.9	18.0	45.0	3.5	
女 性	22.5	14.2	60.1	2.5	<.001
年 齢					
34 歳以下	31.5	21.0	44.0	3.1	
35 歳～49 歳	30.2	18.0	48.9	2.7	
50 歳～64 歳	30.1	16.9	48.9	3.5	
65 歳以上	23.9	10.9	61.7	2.0	<.001
等価世帯所得（月収）					
低（10 万円未満）	14.5	12.4	70.2	2.4	
中低（10～15 万円未満）	32.0	18.3	46.1	3.0	
中高（15～25 万円未満）	37.8	18.4	38.2	4.4	
高（25 万円以上）	45.1	20.9	32.0	1.7	<.001
勤務状況					
勤め（常勤・正規職員）	46.8	24.7	24.6	3.7	
勤め（パート・非正規等）	25.0	17.5	53.3	3.2	
自営業・家業	22.4	8.1	68.2	1.3	
内職	17.4	13.0	69.6	0.0	
その他の就業形態	22.7	10.2	64.8	2.3	
仕事をしていない	13.8	11.1	70.2	3.4	<.001
世帯構成					
独 居	24.0	14.0	57.4	3.7	
同 居	29.7	17.2	49.8	2.7	<.001
困りごとを相談できる人の有無					
い る	31.4	15.6	49.8	2.8	
いない	25.8	19.3	50.8	3.5	.009
友人・知人と会う頻度					
週 4 回以上	27.2	19.6	51.6	1.1	
週 2 ～ 3 日	28.9	14.8	52.0	3.5	
週 1 回	33.6	15.8	44.6	4.5	
月 1 ～ 3 回	27.4	14.7	55.5	2.2	
年に数回	30.1	16.8	49.7	2.4	
会っていない	24.0	17.9	53.7	4.2	.008
食事は誰とするか					
他者あり	29.8	16.9	50.4	2.7	
ひとり（孤食）	26.5	15.8	53.3	3.4	.009

注：該当者が少ないため「その他（障害・死亡）」を除いている

基本属性等による返還免除状況の相違（つづき）

	免除なし	延滞	非課税・生 活保護等免 除	償還猶予	p
健康度自己評価					
とてもよい	33.5	20.7	42.6	2.6	
まあよい	31.6	15.8	49.5	2.9	
あまりよくない	23.7	17.0	55.1	3.2	
よくない	17.0	13.1	64.1	3.4	<.001
社協からの紹介・サポート					
あ り	19.9	13.1	59.6	6.1	
な し	30.9	13.3	53.9	1.4	<.001
使用言語（調査票内）					
日本語	24.3	15.6	57.0	2.4	
英 語	53.9	25.0	21.2	0.0	
ポルトガル語	42.3	29.6	21.6	6.6	
ベトナム語	57.8	16.9	22.5	2.8	
スペイン語	27.7	21.3	44.7	6.4	<.001

注：該当者が少ないため「その他（障害・死亡）」を除いている

- 返還免除状況による制度への満足度については、非課税・生活保護等免除の人の 5 割以上がとても満足と回答し、満足度が高い傾向にあった。
- 「今後の返済の見通しに関する不安」については、「延滞」および「償還猶予」の人の約 7 割がとても不安があると回答し、「免除なし」および「非課税・生活保護免除」と比べて顕著に高かった。他方で、「非課税・生活保護免除」では不安がないという人が 3 割弱しかおらず、返済が免除されているにもかかわらず、7 割程度が不安を抱えていた。
- 「社会福祉協議会は今後あなたが困ったときに頼れるところになると思うか」については、「免除なし」、「非課税・生活保護等免除」および「償還猶予」の人では 8 割以上がそう思うと回答したのに対して、「延滞」では約 7 割とやや少なくなっている。

返還免除状況による制度への満足度等の相違（列％）

	免除なし	延滞	非課税・生活保護等免除	償還猶予	p
コロナ特例貸付に対する満足度					
とても満足	38.0	40.0	53.4	36.3	
やや満足	42.7	41.4	34.6	44.0	
やや不満	15.1	12.7	7.7	14.3	
とても不満	4.2	5.9	4.3	5.5	<.001
返済の見通しに関する不安					
とても不安がある	34.7	66.1	46.7	70.3	
少し不安がある	43.6	28.1	25.2	23.1	
あまり不安はない	13.1	4.2	10.3	4.4	
不安はない	8.7	1.6	17.8	2.2	<.001
今後社協は頼れるところになるか					
とてもそう思う	32.6	28.7	35.3	37.4	
ややそう思う	48.2	44.4	46.1	45.1	
あまりそう思わない	15.3	19.8	13.7	14.3	
そう思わない	4.0	7.1	4.9	3.3	.017

注：該当者が少ないため「その他（障害・死亡）」を除いている

(8) フォローアップ支援の状況による借受人の「変化」の相違

- 社協から紹介やサポートを受けた人ほど、「社協が頼れるか」という問いへの回答が「思わない→思う」(6.9%)へ移行している人が多い。
- 社協職員と話をしたことがあったと認識している人ほど、幸福度が「低→高」(12.3%)へ移行している人が多い。
- 自宅訪問によって社協職員と話をした人ほど、返済の見通しに対する不安が「ある→ない」(14.3%)へ移行している人が多い。
- 以上から、社協によるフォローアップ支援が社協への信頼、幸福度改善、不安軽減に寄与している可能性がある。

2023 年・2024 年調査の回答者

		2023年調査		
		回答あり	回答なし	合 計
		n	n	n
2024年調査	回答あり	2143	940	3083
	回答なし	1156	5249	6405
	合 計	3299	6189	10227

注：以下の「変化」の相違にかかわる分析では、下線のサンプルを用いている

社協から紹介やサポートを受けたか否かとのクロス集計

	(紹介やサポートを) 受けた		(紹介やサポートを) 受けていない		p
	n	%	n	%	
返済の見通しに関する不安					
ある→ある	435	75.8	1006	70.6	.101
ない→ある	27	4.7	82	5.8	
ある→ない	70	12.2	196	13.7	
ない→ない	42	7.3	142	10.0	
社会的な孤立度 (困った時の相談相手の有無)					
いる→いる	199	43.6	509	41.3	.274
いない→いる	113	24.8	272	22.1	
いる→いない	44	9.7	138	11.2	
いない→いない	100	21.9	313	25.4	
社会的な孤立度 (友人との交流頻度)					
多い→多い	234	38.4	563	36.7	.762
少ない→多い	67	11.0	184	12.0	
多い→少ない	74	12.2	175	11.4	
少ない→少ない	234	38.4	612	39.9	

社協から紹介やサポートを受けたか否かとのクロス集計（つづき）

	(紹介やサポートを) 受けた		(紹介やサポートを) 受けていない		p
	n	%	n	%	
幸福度					
高→高	74	12.2	225	14.7	
低→高	75	12.3	140	9.1	
高→低	48	7.9	149	9.7	
低→低	412	67.7	1020	66.5	.044
社協は頼れるか					
思う→思う	506	83.1	1064	69.4	
思わない→思う	42	6.9	85	5.5	
思う→思わない	45	7.4	245	16.0	
思わない→思わない	16	2.6	140	9.1	<.001

社協職員と話をしたか否かとのクロス集計

	(話をしたことは) あった		(話をしたことは) なかった		(話をしたことは) 覚えていない		p
	n	%	n	%	n	%	
返済の見通しに関する不安							
ある→ある	370	78.1	869	68.2	131	82.4	
ない→ある	20	4.2	77	6.0	7	4.4	
ある→ない	52	11.0	192	15.1	10	6.3	
ない→ない	32	17.8	137	10.8	11	6.9	<.001
社会的な孤立度 (困った時の相談相手の有無)							
いる→いる	180	44.8	454	41.7	60	39.2	
いない→いる	92	22.9	254	23.4	34	22.2	
いる→いない	39	9.7	115	10.6	20	13.1	
いない→いない	91	22.6	265	24.4	39	25.5	.834
社会的な孤立度 (友人との交流頻度)							
多い→多い	197	39.2	496	37.0	58	34.3	
少ない→多い	55	10.9	162	12.1	24	14.2	
多い→少ない	54	10.7	154	11.5	20	11.8	
少ない→少ない	197	39.2	530	39.5	67	39.6	.889
幸福度							
高→高	50	9.9	214	16.0	26	15.4	
低→高	62	12.3	127	9.5	17	10.1	
高→低	42	8.4	137	10.2	10	5.9	
低→低	349	69.4	864	64.4	116	68.6	.008
社協は頼れるか							
思う→思う	382	75.9	983	73.3	118	69.8	
思わない→思う	34	6.8	70	5.2	14	8.3	
思う→思わない	56	11.1	176	13.1	31	18.3	
思わない→思わない	31	6.2	113	8.4	6	3.6	.018

社協と話をした方法とのクロス集計

	訪問		電話		社協を訪ねた		p
	n	%	n	%	n	%	
返済の見通しに関する不安							
ある→ある	86	68.3	79	81.4	192	80.7	
ない→ある	4	3.2	3	3.1	14	5.9	
ある→ない	18	14.3	11	11.3	22	9.2	
ない→ない	18	14.3	4	4.1	10	4.2	.004
社会的な孤立度							
(困った時の相談相手の有無)							
いる→いる	52	46.9	38	46.9	86	43.2	
いない→いる	29	26.1	16	19.8	46	23.1	
いる→いない	9	8.1	8	9.9	20	10.1	
いない→いない	21	18.9	19	23.5	47	23.6	.902
社会的な孤立度							
(友人との交流頻度)							
多い→多い	55	40.4	36	36.0	100	39.8	
少ない→多い	13	9.6	12	12.0	29	11.6	
多い→少ない	13	9.6	12	12.0	26	10.4	
少ない→少ない	55	40.4	40	40.0	96	38.3	.976
幸福度							
高→高	14	10.3	10	10.0	25	10.0	
低→高	20	14.7	14	14.0	30	12.0	
高→低	10	7.4	9	9.0	21	8.4	
低→低	92	67.7	67	67.0	175	69.7	.989
社協は頼れるか							
思う→思う	107	78.7	72	72.0	193	76.9	
思わない→思う	6	4.4	6	6.0	20	8.0	
思う→思わない	16	11.8	16	16.0	22	8.8	
思わない→思わない	7	5.2	6	6.0	16	6.4	.447

4. 調査票

くらしに関する調査

本調査へのご回答は、生活福祉資金貸付制度の研究調査に利用させていただきます。アンケート回答に際しましては、そのことについてご同意いただいた上でご回答を頂きますようお願い申し上げます。

■ 調査にご回答いただく前にお伺いします ■

本調査にご回答をいただく方はどなたですか。

1. お金を借りた人（本人） 2. 本人以外 →本人との続柄（ ）

■ 現在のお困りごと等についてお伺いします ■

問1：現在の家計状況はどれに該当しますか。

1. とても厳しい 2. やや厳しい 3. 少しゆとりがある 4. ゆとりがある

問2：現在、以下それぞれの出費についてどの程度困っていますか。

1) 食料・日用品・家賃にかかる出費

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

2) 医療・介護にかかる出費

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

3) ローン・借金の返済

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

4) 税金・公共料金の支払

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

5) 教育・子育てにかかる出費

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

6) 娯楽・趣味・交際にかかる出費

1. とても困っている 2. やや困っている 3. あまり困っていない 4. 困っていない

問3：現在、下記のような困りごとはありますか。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 特に困っていることはない
2. 病気・健康・障害・看護・介護に関すること
3. 住居・居住環境に関すること
4. 就職・仕事に関すること
5. お金に関すること
6. 人間関係に関すること
7. 家族関係に関すること
8. 子育てに関すること
9. ひきこもり・不登校に関すること
10. 虐待・DVに関すること
11. 依存症に関すること
12. その他（ ）

→ **困りごとがある方**にお聞きします。(1. 特に困っていることはない以外に○をつけた方)
下記のような人と困りごとについて話す機会がありましたか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 配偶者 2. 親族・親戚 3. 同僚・友人 4. 近隣住民・民生委員 5. 役所・役場
6. 専門家(ファイナンシャルプランナー・弁護士・税理士など) 7. 社協職員
8. その他 ()
9. 誰とも話していない

問4：今後何か困ったときに、相談できる人はいますか。

1. いる 2. いない

➡ 1. **いる**と答えた方にお聞きします。それはどのような人ですか。
(あてはまるもの**すべて**に○をつけてください)

- 1. 配偶者 2. 親族・親戚 3. 同僚・友人 4. 近隣住民・民生委員 5. 役所・役場**
6. 専門家(ファイナンシャルプランナー・弁護士・税理士など) 7. 社協職員
8. その他 ()

■ 社会福祉協議会との関わりや、現在のお気持ちについてお伺いします ■

問5：直近1年程度で社会福祉協議会から以下のような紹介やサポートがありましたか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 悩みや困りごとを聞いてくれた
2. 食品の提供
3. 家計のやりくりへのアドバイス
4. 借金整理などの法律相談の紹介
5. 医療・看護・介護・障害に関するサービスや支援の紹介
6. 居住確保に関するサービスや支援の紹介
7. 就労に関するサービスや支援の紹介
8. 子育て・子どもに関するサービスや支援の紹介
9. 居場所活動（子ども食堂等）やサロンの紹介
10. 役所やその他相談機関への同行
11. 手続き・書類作成等のサポート
12. 通訳
13. その他（ ）
14. 特にあてはまるものはなかった

問6：直近1年程度で社会福祉協議会職員と、貸付に関することや困りごとについて話をしたことはありましたか。

1. あった 2. なかった 3. 覚えていない

問7へ進んでください

→ 1. あったと答えた方にお聞きします。

1) それはどのような方法でしたか。(あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 自宅に訪問があった 2. 電話がきた 3. 社会福祉協議会を訪ねた

→ 2) 話をしてよかったと思いますか。

1. とてもそう思う 2. 少しそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

→ 3) 訪問や電話等は、安心につながりましたか。

1. とてもそう思う 2. 少しそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

→ 4) 訪問や電話等は、生活の困りごとの解決に役立ちましたか。

1. 役立った 2. 少し役立った 3. あまり役立たなかった 4. 役立たなかった

問7：今回利用されたコロナ特例貸付に対する満足度はどの程度ですか。

1. とても満足 2. やや満足 3. やや不満 4. とても不満

問8：今後の返済の見通しに関する不安はありますか。

1. とても不安がある 2. 少し不安がある 3. あまり不安はない 4. 不安はない

問9：社会福祉協議会は、今後あなたが困ったときに頼れるところになると思いますか。

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

■ あなた自身のことについてお伺いします ■

問10： 1) 性別

1. 男性 2. 女性 3. 答えたくない

2) 年齢

歳

問11：現在の就業状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パート・アルバイト・非正規職員） 3. 自営業・家業
4. 内職 5. その他の就業形態 6. 仕事をしていない

→ 「6. 仕事をしていない」を選んだ方にお伺いします。
現在、お仕事を探していますか。

1. 仕事を探している 2. 仕事を探していない

1. 介護・介助は必要ない 2. 何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない
3. 介護・介助が必要で、介護・介助を受けている

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

1. ひとり 2. 配偶者 3. 子ども 4. 親 5. 孫 6. 友人 7. その他 ()

1. 週4回以上 2. 週2～3日 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 会っていない

まったく感じない とても感じる

0点---1点---2点---3点---4点---5点---6点---7点---8点---9点---10点

1. 0～5万円未満 2. 5万円～10万円未満 3. 10万円～20万円未満
4. 20万円～30万円未満 5. 30万円～50万円未満 6. 50万円以上

令和6年度 生活福祉資金特例貸付フォローアップ支援事業
滋賀県におけるコロナ特例貸付利用者に対する福祉的支援に関する調査研究
暮らしに関するアンケート調査 報告書

令和7(2025)年8月発行
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
〒525-0072 滋賀県草津市笠山 7-8-138
TEL:077-567-3920 MAIL:tiiki@shigashakyo.jp
